

# 救急搬送（救急車要請）対応マニュアル

南アルプス市立八田中学校

## 救急車を呼ぶ必要がある症状

「心臓や脈が止まっている」「呼吸をしていない」などわかりやすい症状以外に、以下のような症状がある場合は、すぐに救急車を呼ぶこととする。

### 《15歳以下の子どもの場合、緊急を要する症状には以下のようなものがある》

- 意識障害が起きている（意識がない、朦朧としている）
- 物を飲み込んだことによる呼吸困難・意識がない
- けいれんが止まらない（けいれん時間に注意する）
- 全身にじんましんが出て顔色が悪くなった
- 広範囲にやけどを負った
- 交通事故や水難事故に遭った、高い場所から落ちた場合
- 41.5℃以上の高熱がある

### 《部位別に特に注意したい症状》

- 頭：頭痛とけいれんがある、頭からの出血が止まらない・意識がない・受傷前後の記憶がない等  
（頭部打撲アセスメントシートへの記入とシート項目4に準じた対応）
- 顔：唇が紫色に変色している、顔色が悪い、眼球を強打している、眼球運動・見え方の異常
- 胸：激しい咳がある、苦しそうに呼吸している、呼吸が弱い
- 腹：激しい下痢や嘔吐・血便がある、食欲がなく意識がはっきりしない
- 手足：手足の硬直が起きている

\*41.5℃以上の高熱は身体に有害な場合があるので、車ですぐ救急病院へ向かえない場合は救急車を呼ぶ。

\*頭に関しては強打した場合、外傷はなくても内出血している可能性もあるので、痛みやけいれん、吐き気があれば救急車を呼ぶ。痛み等がなくても、保健室で養護教諭等が付き添う中で、2時間程度休ませて様子を見る。その際は学級担任等から保護者に連絡を入れる（情報を伝える）

**救急車を呼ぶかどうかの判断に迷った場合は、救急車を呼ぶ**

**保護者からの要請があった場合は上記症状に該当しなくても救急車を呼ぶ**

## 救急車を呼ぶ際の留意点

救急車を呼ぶ際は、まず119番に電話をし、担当の職員へはっきりと救急であることを伝える。その後、住所・電話番号・症状等について慌てず落ち着いて伝える。並行して保健調査票のコピーを用意する。

- 火災か救急か、はっきり伝える
- 救急車を向かわせる場所：八田中学校 住所：南アルプス市榎原620
- 救急車の要請理由（傷病者の状態を伝える）
  - ・症状が出ている方の性別・年齢
  - ・事故の状況（突然倒れた、転倒して頭部を打った等）
  - ・意識の有無
  - ・呼吸の有無
  - ・会話が可能か等

※通報時の症状から重症度・緊急度を判断し、ドクターカー、ドクターヘリ等の要請を行うため、第1報通報時に大まかな症状を伝える

- 通報者の名前と電話番号を伝える（救急隊よりコールバックがある場合もあるので携帯番号を伝えるか、固定電話の場合は子機で対応する）
- 救急隊への対応は、事故の状況を説明できる職員が立ち会う
- 救急車が到着するまでに行うこと（救急隊が到着したら伝えること）
  - ・救急車の誘導
  - ・傷病者の詳細情報（氏名・年齢・生年月日・既往現病歴・保護者の氏名・保護者と連絡が取れる電話番号）以上を紙媒体で救急隊に渡す（**保健調査票のコピーで可**）
  - ・薬を飲んでいたら飲んでいる薬を救急隊へ渡す
  - ・通報から救急隊到着までで容態変化があれば伝える
  - ・行った応急手当の内容を伝える

### 意識がない場合等の対応

- \*意識がなく、心臓や呼吸が止まっている場合は現場にいる職員で応急手当を行う必要がある。
- \*119番通報すれば指令センターの方が適切に指示してくれるので、すぐに通報することが重要。
- \*倒れている人に呼びかけて反応がなければ、呼吸を確認する。呼吸なし、普段通りの呼吸でない、確認した分からないときは心肺蘇生として胸骨圧迫（心臓マッサージ）を実施する。
- \*心肺蘇生を行っている間に別の方がAEDを用意し、状況に応じてAEDで電気ショックを与えるなどの処置を行う。  
（職員向けの心肺蘇生法とAEDの実技講習を年に1回は必ず行い、全職員が受講する）

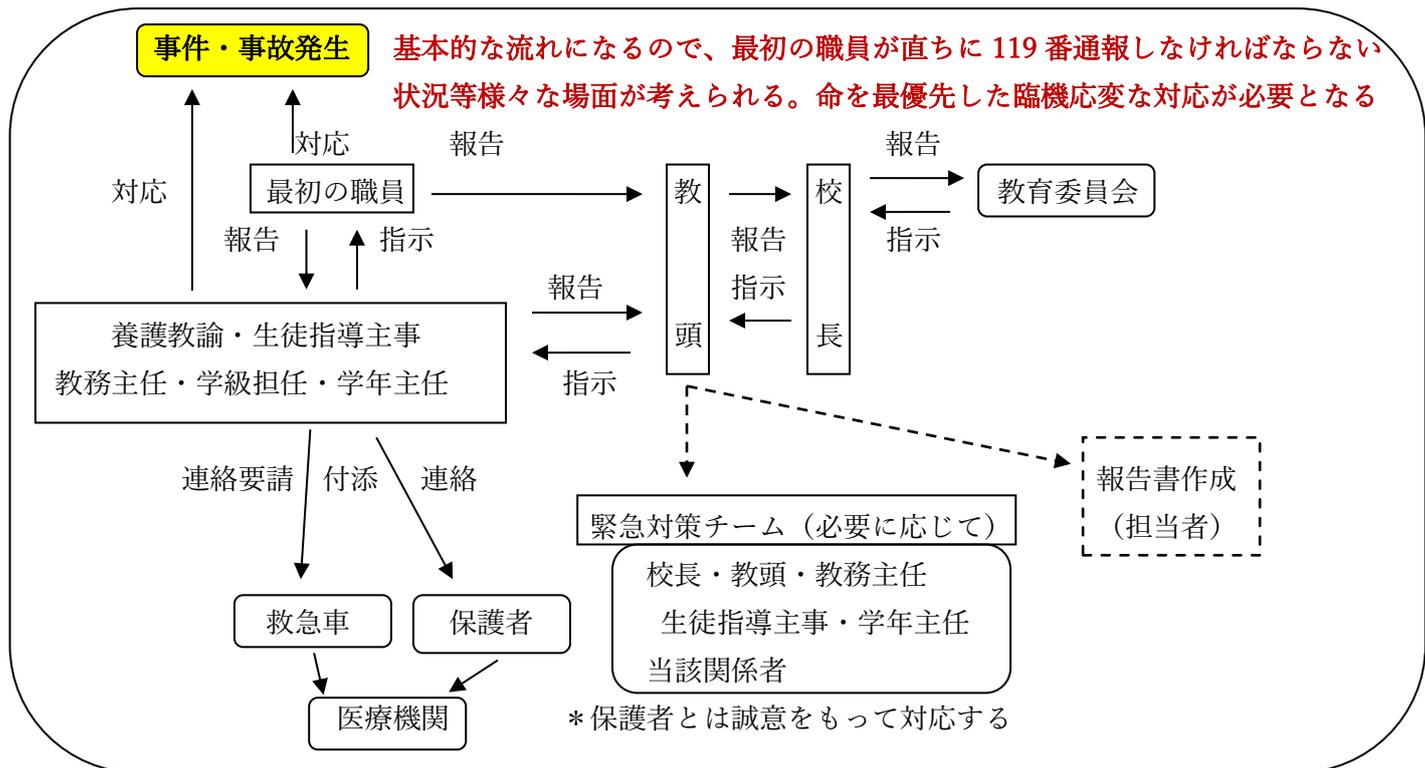
### 出血がある場合の対応

- \*出血がある場合は、直接圧迫止血法ですぐに止血をする必要がある。直接圧迫止血法は、ガーゼやハンカチを出血している部分に強く当てることで、出血を抑える方法。直接、血に触れることで感染などの問題もあるので、ビニール袋を利用して圧迫すると良い。

### 救急車への付き添い

- \*救急車に乗れる人数には限りがあるため、基本的に付き添いは1人のみとし、養護教諭が付き添う。
- \*養護教諭が不在の場合は、状況を把握できている職員が付き添う。
- \*保護者が学校に到着している場合は、保護者も付き添って良いかを確認し、救急隊の了承を得る。  
（付き添いが1名のみであれば、特別な場合を除き、基本的に状況を把握している学校職員が付き添う）
- \*保護者が学校に到着していない場合は、搬送先の病院を伝えて、直接病院に来ていただく。

事故（怪我）発生時の緊急体制（基本モデル）《命を最優先に柔軟に対応》



※この「救急搬送（救急車要請）対応マニュアル」は、南アルプス消防本部に指導、助言をいただき、作成したものです。

令和6年7月